

第Ⅳ部門

宇陀市松山地区における薬草園及び製薬業遺産の活用に関する研究

近畿大学理工学部社会環境工学科 学生員 ○笹尾 俊博
 近畿大学理工学部社会環境工学科 正会員 岡田 昌彰

1. はじめに

奈良県宇陀市大宇陀に位置する松山地区においては江戸時代から薬草栽培が盛んであり、重要な生業として位置づけられてきた。近年は現存する薬種問屋などの製薬業遺産や薬草を活用した地域振興が行われている。このように製薬業の歴史を活かした地域振興は「全国薬草シンポジウム」をはじめ日本各地でも行われているが、その活用法は各々検討途上にあると言える。本研究では、日本各地における薬草に由来する有形・無形遺産の活用現況を整理し、製薬業遺産の社会的位置づけ法を明らかにすることを目的とする。

2. 宇陀市松山地区の概要

多種多様な薬草の繁茂する当地は飛鳥時代より宮廷の薬猟地「阿騎野」として知られ、日本書紀にも推古天皇による宮中行事「薬狩り」の記録がある。江戸時代後期には薬草問屋が53軒あり賑わいを見せていた。また、近代以降はロート製薬の山田安民(1868-1943)、ツムラの津村重舎(1871-1941)、アステラス製薬の藤沢友吉(1866-1932)など、日本を代表する大手製薬会社の創業者を輩出している点も特徴的であると言える。地区内には旧薬種問屋の歴史的建築物4軒が現存する。



図1 森野旧薬園（宇陀市）

当地における製薬業の中心的存在である森野旧薬園(図1)は1729(享保14)年に葛屋・森野賽郭(1690-1717)によって創設された日本最古の私設薬草園である。森野家は代々葛粉の製造を生業としてきたが、第10代当主の賽郭は独学で薬草を研究し、江戸幕府による薬種国産化政策にも貢献している。近畿、北越、美濃、近江など各地で採薬調査を補佐し、幕府から貴重な外国産薬草の種苗を下賜されることとなる。それら

を自宅裏山に栽培しこの薬園が整備されるに至った。

3. 日本各地における活用事例

本章では日本各地の14都市において展開されている薬草園及び製薬業遺産の活用事例を現地調査し比較検討した(表-1)。

(1) 製薬業関連施設の回遊

宇陀市及び岐阜県飛騨市においては、地域内における薬草の栽培地に加え、歴史的な製薬業遺産群の形づくめる伝統的街並みを回遊するイベントが行われていることがわかった。一方、岡山県真庭市においては薬草園巡りのほか、伝統的な街並み巡りが別個に実施されている(図2)。また、上勝町では新たに整備された薬草栽培現場において見学会が催され、製薬の生業風景が観賞対象に位置づけられていることがわかった。



図2 真庭市における製薬業関連の伝統的街並み

(2) 食文化への活用

宇陀市の大和当帰、会津若松のオタネニンジン、島原のヨモギなど、薬草を地域の食文化に活用する事例が14都市中11都市で確認できた。さらに、それらの多くは薬草の栽培業者によって推進されていることがわかった。

(3) 観賞対象としての薬草園

14都市全てにおいて薬草の栽培や自生が確認できるが、うち7都市においては生産のみならず観賞をも目的とした薬草園が存在することがわかった。鹿児島県始良市と福井県高浜町では薬草の自生する山地において薬草園が整備され、富山県上市町では開花する薬草が観賞対象とされているほか、富山市城址公園内の日本庭園においても薬草や薬木が観賞対象となってい



図3 富山城址公園（富山市）



図4 御薬園（会津若松市）

ることがわかった（図3）。

一方、福島県会津若松市、長崎県島原市、奈良県宇陀市には江戸期に造成された伝統的な薬草園が現存しており、園内には歴史的建造物や石垣が現存していることを確認した。会津若松市の「御薬園」には薬草園とともに心字池を中心とする池泉回遊式庭園が整備され、当地で栽培・製造された「薬草茶」が振舞われるなど飲食と造園の両面において薬草が活用されていることがわかった（図4）。また、ドイツ人医師シーボルトの高弟松平忠誠によって造園された島原市の旧島原藩薬園跡では、薬草園のほか石垣や貯水槽など江戸期

の関連遺構が復元されるなど、産業遺構としての整備が行われている。一方、宇陀市の森野旧薬園には賽郭が晩年薬草研究の拠点とした「桃岳庵」が園内に現存しているが、内部に茶室を具備しており、薬草園なる静謐な環境が活かされた事例と言える。同園内には松山地区全体を俯瞰できる四阿「御涼」、坪庭をもつ隠居所「石水亭」、賽郭の木像を安置する「賽郭祠堂」なども現存しており、薬草園の空間全体に造園的・記念物的な設えが施されていることがわかった（図5）。



図5 森野旧薬園：桃岳庵、賽郭祠堂と御涼

4. 結語

本研究では、製薬業都市における薬草園及び製薬業遺産の活用現況を整理・把握した。一方、製薬の規模や歴史、地形、気候条件など、各地のもつ薬の製造・流通における社会背景や自然条件を考慮した検討には至らなかった。今後の課題として位置づけたい。

【参考文献】

- ・霜氷竹治郎（1959）大宇陀町史
- ・岡田勘之助（1992）新訂大宇陀町史
- ・森野旧薬園へのヒアリング（2018年1月16日実施）

表-1 日本各地における薬草園及び製薬業遺産の活用事例

		全国薬草シンポジウム参加地域							未参加地域						
		玉名市 (熊本)	上勝町 (徳島)	飛騨市 (岐阜)	島原市 (長崎)	始良市 (鹿児島)	真庭市 (岡山)	宇陀市 (奈良)	夕張市 (北海道)	岩手郡 (岩手)	会津若松市 (福島)	富山市 (富山)	上市町 (富山)	高浜町 (福井)	美郷町 (島根)
ソフト整備	回遊	薬草めぐり		薬草めぐり町巡り	薬草めぐり	薬草めぐり	薬草めぐり町巡り	薬草めぐり町巡り					薬草めぐり		薬草めぐり
	薬草に関連したイベント	薬草観察講演会	薬草栽培見学会	飛騨薬草フェスティバル	薬園見学歩き講座	薬草の森散策	薬草探すフィールドワーク	うだ流フェスタ			オタネニンジンフェア		薬草と禅		薬草健康講座
	観光サイト			飛騨市	島原市	始良市		宇陀市			会津地域連携センター	富山市		高浜町	
	食品	有	有	有	有	有	有	有		有	有			有	有
ハード整備	観光薬草園				島原旧薬草園(1853)	県民の森(1984)		森野旧薬草園(1729)			御薬園(1696)	富山城址公園(2015)	富山県薬用植物指導センター(1967)	青葉山ハーバルビレッジ高浜(2016)	
	薬草園の特徴				遺構	自生薬草を利用		造園処理			大名庭園と一体化	庭園と調和	薬草の花を利用	自生薬草を利用	
	生産	栽培	栽培	栽培	栽培	栽培	自生	栽培	栽培	栽培	栽培	栽培	栽培	栽培	栽培
	資料館							薬の館			金看板資料館	売薬資料館		薬草ミニ博物館	
	公共交通整備	バス・電車	バス	電車	バス		バス	バス・電車			バス	電車・バス			
	レンタサイクル			可能	可能		可能	可能			可能	可能	可能	可能	可能
活動団体	行政	玉名市	上勝町	飛騨市	島原市	始良市	真庭市	宇陀市	夕張市		会津若松市	富山市	富山県薬用植物指導センター	薬草育苗センター	美郷町
	企業		(株)いろどり	アルプス薬品工業(株)	島原薬草健康合同会社	フォントナの丘かも(株)		ロート製薬(株)	(株)夕張ツムラ	岩手薬草生産組合				青葉山ハーバルビレッジ高浜	
	NPO			薬草で飛騨を元気にする会	島原薬草会						会津地域連携センター				
	民間団体	小信山薬草の会	上勝薬草研究会			鹿児島県薬草研究会	真庭食べる薬草振興協議会	宇陀市薬草協議会				漢方産業化推進研究会			美郷町薬草研究会